



30年産からは、国の政策転換により米の生産調整が生産者等に委ねられます。

新年のご挨拶

自己改革実践の成果を

～人と人がつながり協同組合の力を発揮するために～



邑築館林農業協同組合
代表理事組合長 江森 富夫

新年あけましておめでとうございませう。

組合員および地域の皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこと謹んでお慶び申し上げます。

今年も戊午年です。戊午年は何かを産む年、命をつなぐ縁起の良い年回りともいわれています。犬は多産でお産が軽いとされることから、赤ちゃんを宿すと安産のため、縁起の良い日とされる戌の日に帯祝い等が行われます。

農家生活でも犬は、昔から農家のパートナーとして農業者に寄り添ってきました。古くは、犬は農家神へ献供すべき御饗の狩りをするための一員でもありました。

当農協も組合員および地域の皆様の頼れるパートナーとなるために、新たな取り組みを産み出す努力を続けてまいります。

さて、当JAの平成29年産の農産物の動向について、米は収穫期に二週連続で大型台風に見まわれました。収穫の遅れから品

質・収量が心配されましたが、大きな被害を免れ豊作となり、集荷実績は33万俵と前年対比110%となりました。米価も業務用米の不足感から値上がりし、生産者の収入増へ繋がりました。30年産からは、国の政策転換により米の生産調整が生産者等に委ねられます。本年も農業所得の増大に向け、需要に応じた米生産の推進に取り組んでまいります。

園芸関係では、昨年も異常気象による出荷量の変動が大きく、販売に苦慮した年となりました。農家所得の増大に向けた取り組みとして、露地野菜の生産振興と業務需要に応じた加工用キャベツ・レタスの契約販売による栽培面積増を図りました。

キウリパッケージ事業は市場評価も高く、生産者の労力支援に努め着実に実績を挙げることができました。今後は産地の維持・拡大に向けたキウリの機械選果施設について生産者の皆様と共に前進させてまいります。

農産物直売所「ばんぼこふれあい食彩館」では地元産の鮮度ある青果物の品揃えや季節感にあふれた商品づくりに取り組み、JAの情報の場として今後も出荷者と共に事業を展開していきます。

当JAでは、平成25年度通常総代会で経営刷新計画を掲げ、いち早く自己改革に取り組み、平成26年12月の臨時総代会では「新・農業ビジョン」と支所再編計画である「新・店舗ビジョン」を決議し実践しています。また、平成28年度通常総代会で掲げた第二次経営刷新3か年計画では「人づくりビジョン」を加え自己改革を進めています。

農協自己改革も佳境を迎え、組合員利用者の皆さんへの農協自己改革実践の成果を確認する時期になりました。本年1月から無作為抽出の正准各750名の組合員の皆様のお宅に職員がお伺いし、農協自己改革の実施状況や組合員の事業利用状況を

調査させていただきました。尚、来年は正准全組合員を対象とする今年と同様のアンケート調査を実施する予定となっております。今年も、第二次経営刷新3か年計画の最終年度となります。「農業所得の増大」「農業生産の拡大」「地域活性化」を柱に第二次経営刷新3か年計画の目標達成に向けて役職員一同で邁進してまいります。

自己改革実践の成果と組合員評価が当JAの将来を左右するとの認識のもと、今年一年真摯に組合員の皆様に引き続き向き合っております。

人と人がつながり協同組合の力を発揮するために、農協自己改革実践のためにも組合員の皆様のご理解・ご協力を賜っていただきたく存じます。引き続きのご支援・ご協力をお願いするとともに、皆様のご多幸とご繁栄を心よりご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。